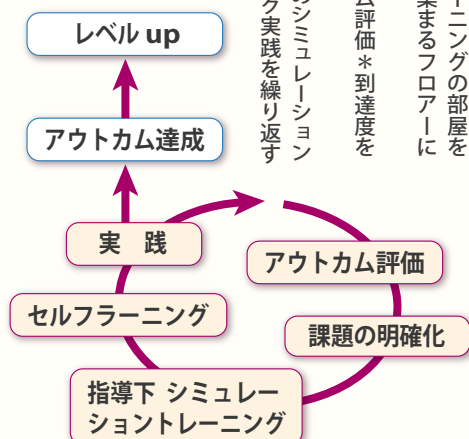


セルフラーニングを軸にインストラクター付きで完全習得をめざします。

- セルフラーニングの部屋を看護師が集まるフロアに設置
- アウトカム評価＊到達度をチェック
- 指導下でのシミュレーショントレーニング実践を繰り返す



自立し、さらに自律へ、そして卓越した看護師になるためのステップ

セルフラーニングと臨床での実践の繰り返しにより自己のスキルを高め卓越したナースをめざす3つのステップをご紹介します。

自立した看護師が自律を目指して：ラダーレベル2から3へのプロセス

事例評価と自己啓発ポイント取得

ポイント取得は、看護業務の評価とともに、内外セミナーや学会、研修会参加し発表を行うなどの内容を明確に規定したポイント制を導入している。発表することで思考する能力を磨き自分がわかる段階から人に伝えること、そして汎用性・普遍性を培うことができその思考のプロセスが大きなポイントであるとしています。

自律した看護師から卓越した看護師へ：ラダーレベル3から4へ

- 院内認定看護師育成
- 休職制度活用と奨学金制度導入による大学院進学支援
- 認定看護師養成支援

卓越した看護師とは？

ジェネラリスト 専門領域 管理・教育指導者

ラダーレベル4の看護師はそれぞれの持ち味を活かして、専門領域に深く入り込む、あるいは管理教育指導者として力を発揮していきますが、そのどちらでもないもうひとつの存在として「ジェネラリスト」を定義づけています。

ジェネラリストをあえて表現すると、「知と術のバランスがとれて、しかも直感的に的確な行動ができる人、職人の世界でたとえるなら「匠」といえるスペシャルな人です。たとえば、その人がいるだけで何故か話がさっとまとまるなどいわゆる五感で分かる、わかっている言葉が要らないというタイプの人をいいます。

★セルフラーニングのために
インストラクター付きで学べるシステム導入！

看護実践力支援室の隣に設置されたシミュレータートレーニング室には、フィジコ2体、ラング2体、イチロー1体、シムマン1体、ALSシミュレーター1体を置いています。このシミュレータを使って少人数グループ単位でいつでも繰り返し学ぶことができます。

しかもインストラクター付きで学ぶことができるシステムは新しい試みです。また、シミュレータの操作方法は、このプロジェクト遂行の上で非常に重要な要素であり、その手順を「英語の授業」などに教材の一つとして取り入れて展開しています。そのほか、eラーニングを使って学生は自宅でも復習やテストを受けることができるようになりました。



■これまでの活動について

事業は2年目に入り、外部から特任教授として三宮里香氏を迎え、さらに医学部保健学科の院生でもあり元看護学校教諭高橋恵氏をスタッフに選抜して体制を強化し、特別支援室を設け専用Webサイトで随時活動報告をしています。

詳細は <http://saving-life.org/>



プロジェクトチームの皆様

前列左より、山内先生、三浦看護部長、太田副看護部長、植村副看護部長、後列右より山口看護部長、高橋先生、三宮先生、事務の兼岩さん

〔後記〕

●このプロジェクトから日本のナースが変わる！と感じた一瞬でございました。同時に教育用シミュレータを製造するメーカーとして、シミュレータの性能や質の向上にこれまで以上に責任を感じた瞬間でもありました。医師とともに医療の最前線にあり、医療従事者の中で最も大きな集団である看護師は、医師にはできない方法で患者さんを救える力があるというゆるぎない信念の元に、自らを投じて模範となる覚悟でこのプロジェクトに臨んでおられることがひしひしと伝わってまいりました。ご多忙にもかかわらず貴重なお時間をいただき紙上より厚くお礼申し上げます。

平成22年度文部科学省の大学改革推進事業「看護師の人材養成システムの確立」において、「私が命を救う」をスローガンに掲げて採択された「Saving life ナース育成プラン」のプロジェクトチームを訪ねて、名古屋大学附属病院 副院長兼看護部長 三浦昌子氏および名古屋大学医学部保健学科 教授 山内豊明氏にお話を伺いました。



三浦昌子氏



山内豊明氏

「現場では、急変時の症状に気づいても迅速な対応に繋がらず心肺停止に陥るというケースが少なくありません。そこで本プランは、実践的なフィジカルアセスメントと看護技術を修得できる教育プログラムを看護部と保健学科との共同で開発し、クリティカル場面的に確に対応できる看護師を育成したいと考えています。そして、『目的に応じた内容を、いつでも・何度でも繰り返し経験できる』というシミュレーショントレーニングの利点を生かし、セルフラーニング手法（学習者が納得いくまで技能を自己研鑽）を用いて、学習者個々の教育成果を評価しながら確実に技術を修得することで、より多くの命を救うことを目指しています。」

さらに、このプログラムを通して、実践指導ができる教育指導者を養成し、看護部と保健学科教員との人事交流を通して循環型教育システムを構築したいと考えています。また、個人の目標やライフスタイルに合わせたキャリアデザインを描くことができ、仕事を中断することなく継続できる環境を整備したいと考えています。」



各フロアにレストランやカフェがある名古屋大学附属病院 新病棟

「以上引用」
「Saving life 私が命を救う」専用ウェブサイトに三浦副院長兼看護部長のあいさつあり

はじめに

「フィジカルアセスメント」は、2009年に正式にカリキュラムに導入され、今年2011年は新しいカリキュラムで学んだ学生が入職した年です。いうまでもなくフィジカルアセスメント教育の第一人者、山内豊明先生は1991年、医学部博士課程修了後通算8年の臨床経験のあと、カリフォルニア大学医学部勤務を経て米国でNP（ナースプラクティショナー）・看護学博士を取得し、帰国後日本での看護師・保健師免許を取得されました。医師であり看護師である山内先生は、あらゆる機会を通じて「フィジカルアセスメント技術」の普及と実践に努めてこられました。それは多くの先生方と多くの教育機関に支持され、看護技術に不可欠な要素として導入・展開されてきました。その中で当社の「フィジカルアセスメントモデル フィジコ」も、1000体を超え全国の教育機関で演習や実習に活用されています。お二人のお話は、「フィジカルアセスメント技術」は、世界でも定評がある日本の看護の細やかさ・手厚さをバックボーンに、グローバル時代に合った科学的な裏付けと思考を加えながら、看護の現場に生きる技術として思いつく段階を迎えようとしていくことを予想させるものでした。

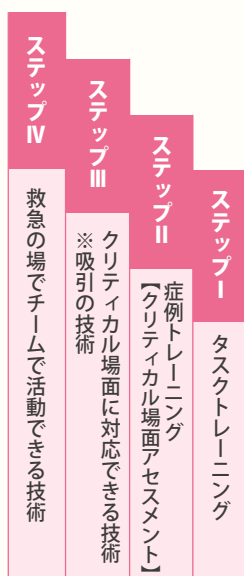


プロジェクトを通じて実現するべきことは、どこでも通用し、誰にでも明確な基準をつくることです。

「看護の『看』という字は、手と目から成り立っているように、フィジカルアセスメントとは手できちんと観察でき、結果を人に説明し伝えることができるということだと思います。この能力が自立への要素であると考え中心に位置付けています。これまでは残念ながら、がんばっているのに成果が見えず、貴重な経験や実績を思うように積み上げることができずにきました。今回のプロジェクトで看護師の能力をどう評価し検証し、結果をどう次に活かしていくかという明白な基準・評価項目をもつ標準化されたプログラムを開発することで、日本中どこでも通用しクリティカルな場面に臨機応変に対応できる看護師を養成することができると考えています。また、このプランは名古屋大学内の人材を育てることに限定したものではなく、育成された人材が院外で活躍し地域の人材育成へと広がっていくことを念頭におき、地域の他の病院の模範となっていくことが重要だと考えています。」
とお二人は口を揃えて熱く語ってくださいました。

プロジェクトの柱

フィジカルアセスメント技術・呼吸および循環の教育プログラムを通して知識と技術を一体化します。



★評価の方法と運用

呼吸・循環のフィジカルアセスメント技術の評価は、「フィジコ」「イチロー」「ラング」などのシミュレータを使って行い、とくに評価テストの前にはスタッフが入念にシミュレータの機能をチェックしています。アウトカム達成度の評価方法は、実技では9問中9問正解、知識テストでは15問中12問をクリアすると次に進むことができます。テストに合格するまでは何度でもトレーニングを繰り返すことができ、合格に至るトレーニング回数の平均値などもデータ化しています。加えて、症例によるレベル達成度の違いや、達成後もその能力が維持できるかについてもデータ化を試みています。



テストに臨む4月に入職した新人看護師